

はじめに

角家 暁

私共の金沢医科大学の脳神経外科教室も、この昭和 59 年で創設以来満 10 年の年月を経て来たことになる。これを区切りとし、これからの教室の新たな発展を図るために記念講演会といった考えもあったが、教室の諸君の意見ではこの 10 年間何をして来たかを、出来る限り事実にして記録に残し、今後の発展の糧としようという意向が強く、この 10 年誌が生まれることになった。

教室の創設を、私が辞令を貰い、暫定病院であった浅ノ川総合病院で診療を開始した時とする昭和 49 年 6 月、これより昭和 58 年 12 月末までの教室の研究・診療実績を中心に、関連病院の記録もこれに加えた。また、私共と一心同体になって診療を支えてくれた看護部脳神経外科部門の人事も含め、現教室員と教室に席を置いていただいた人々の随想もいただいた。

これに目を通してみると、何の基礎も無い所で、新設医大の宿命として最も力を注がざるを得なかった学生の教育の重責を担いながら、よくここ迄歩んで来ることが出来たと云う見方も生まれるであろうし、また一方、陽の目を見なかった研究・診療の業績の多くあるのに気付き、この 10 年間、もう少し時間の使い方に気を配り、勤勉であったなら、もっと多くの成果を上げて、社会に貢献出来たであろうと云う見方もあると思う。

しかし、ここに収められた内容は、兎も角私共がこの 10 年間に行って来たことの全ての記録で、その評価はどうかあれ貴重なものに思われる。これを契機として、大学の中にいる人にも、また関連病院で直接地域医療の第一線で活躍している人々にも、さらに力を合わせて、この 10 年後にはもっと立派な業績集が出来るように、教育・研究・診療に精を出していただきたいと思う。